

令和5年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会報告書

【 小学校・生活科 】

所 属 名 学校教育課

職名・氏名 指導主事 久慈 直子

【報告書のポイント】

- ・小学校では、幼児教育の中で総合的に学んできたことを生活科が引き受けて、生活科と国語、生活科と算数、生活科と図画工作というように他教科との合科的・関連的な指導に取り組んでいる。生活科を担当する先生方は、各教科をどのようにつなげていくのかを意識しながら教育活動を行っていく必要がある。
- ・ICTを使うことによって、「多様性を生かす」「振り返り表現する」「伝え合い交流する」ということが実現されていく。
- ・子供たちの遊びを通した活動が、小学校教育にどのようにつながり、学校の授業ではどのように実現し、先生方がどのようにサポートしているのかがわかっていくと、保育園や幼稚園ではどのような活動をし、保育をしていくのかということがより一層明らかになり、質の高いものになっていくことを期待している。

Ⅰ 行政説明 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤 博伸

合科的・関連的な指導の工夫

生活科改訂の趣旨及び要点

生活科改訂の趣旨及び要点（解説生活編P5、6）

中央教育審議会答申において、学習指導要領等改訂の基本的な方向性が示されるとともに、各教科等における改訂の具体的な方向性も示された。今回の生活科の改訂は、これらを踏まえて行われたものである。

生活科は、**児童の生活圏を学習の対象や場**とし、それらと**直接関わる活動や体験を重視**し、具体的な活動や体験の中で**様々な気付き**を得て、**自立への基礎を養う**ことをねらいにしてきた。平成20年改訂の学習指導要領では、**活動や体験を一層重視**するとともに、**気付きの質を高める**こと、**幼児期の教育との連携**を図ることなどについて充実を図った。

その**成果**として、各小学校においては、身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたこと・楽しかったことなどを表現する活動を大切にしている学習活動が行われており、言葉と体験を重視した改訂の趣旨がおおむね反映されているものと考えられることができる。

一方で、**更なる充実**を図ることが期待されることとして以下の点が示された。

- 活動や体験を行うことで**低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動**を重視すること。「活動あって学びなし」との批判があるように、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。
- 幼児期の教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する**低学年教育として滑らかに連続、発展させること**。幼児期に育成された資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこでの生活科の役割を考える必要がある。
- 幼児期の教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、**学校全体で取り組むスタートカリキュラム**とする必要がある。
- 社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする**中学年の各教科等への接続を明確にする**こと。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成を目指す資質・能力や「見方・考え方」のつながりを検討することが必要である。

生活科の本質

生活科の充実



成果

生活科の更なる充実

低学年らしい思考や認識、
次の活動へつなげる

低学年教育の充実

学校全体で取り組む
スタートカリキュラム

社会科や理科、総合への
接続を明確にする

3

各教科で期待される資質・能力を育成する低学年教育として滑らかに連続、発展させること。
幼児期に育成された資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこでの生活科の役割を考える必要がある。

幼保小の架け橋プログラムによって、幼児教育も小学校教育も保育の質や授業の質を高める取組をしている。

低学年教育の充実

- ・ 幼児期の教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する**低学年教育として滑らかに連続、発展させること**。幼児期に育成された資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこでの生活科の役割を考える必要がある。

(解説P58) 指導計画作成上の配慮事項(4)

- ・ 低学年教育の充実の観点から、**更に他教科等との関連**を意識し、これまで例示されてきた国語科、音楽科、図画工作科はもちろんのこと、低学年の全ての教科等と生活科との関連を図り、指導の効果を高めていくことが求められている。
- ・ 小学校入学当初において**生活科を中心としたカリキュラムのデザイン**を行うことで、小学校へ入学した児童が、安心して学校生活を送るとともに、自信をもって成長し、学習者として確かに歩んでいくようになることが期待される。
- ・ これらのことは、**生活科が、低学年における教育全体の充実を図る上で重視すべき方向を表しており、教科等間の横のつながりと、幼児期からの発達の段階に応じた縦のつながりと**の**結節点**であることを意識することが重要である。

他教科との関連

(解説P58～60) 指導計画作成上の配慮事項(4)

生活科と他教科等との合科的・関連的な指導を行ったり、低学年の児童の生活とつながる学習活動を取り入れたりして、**教科等横断的な視点で教育課程の編成、実施上の工夫**を行うことが重要である。

1年間の全ての単元を配列し、それを俯瞰することができる**単元配列表**の作成が効果的である。

令和2年山梨大会研究紀要から

幼児期に学んだことをいかに小学校につなげていくのか。

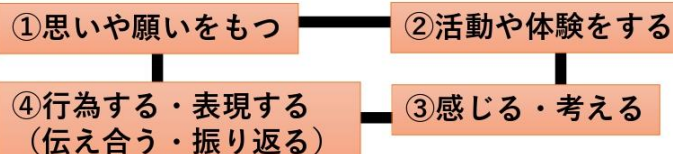
小学校では、幼児教育の中で総合的に学んできたことを生活科が引き受けて、生活科と国語、生活科と算数、生活科と図画工作というように他教科との合科的・関連的な指導に取り組んでいる。

生活科を担当する先生方は、各教科をどのようにつなげていくのかを意識しながら教育活動を行っていく必要がある。

解説総則編と生活編における「深い学び」を照合する

総則編

習得・活用・探究という**学びの過程**の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、**知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したり** **することに向かう「深い学び」**が実現できているかという視点。



「**身近な生活に関わる見方・考え方**」
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする

生活科の学習過程を繰り返すことによって、生活科の資質・能力が育成されていく。

生活編

(p.15)自分自身や自分の生活について考え、表現することにより、**気付きの質**が高まり、**対象が意味付けられたり価値付けられたりする**ならば、身近な人々、社会及び自然は自分にとって一層大切な存在になってくる。このような「**深い学び**」の実現こそが求められるのである。

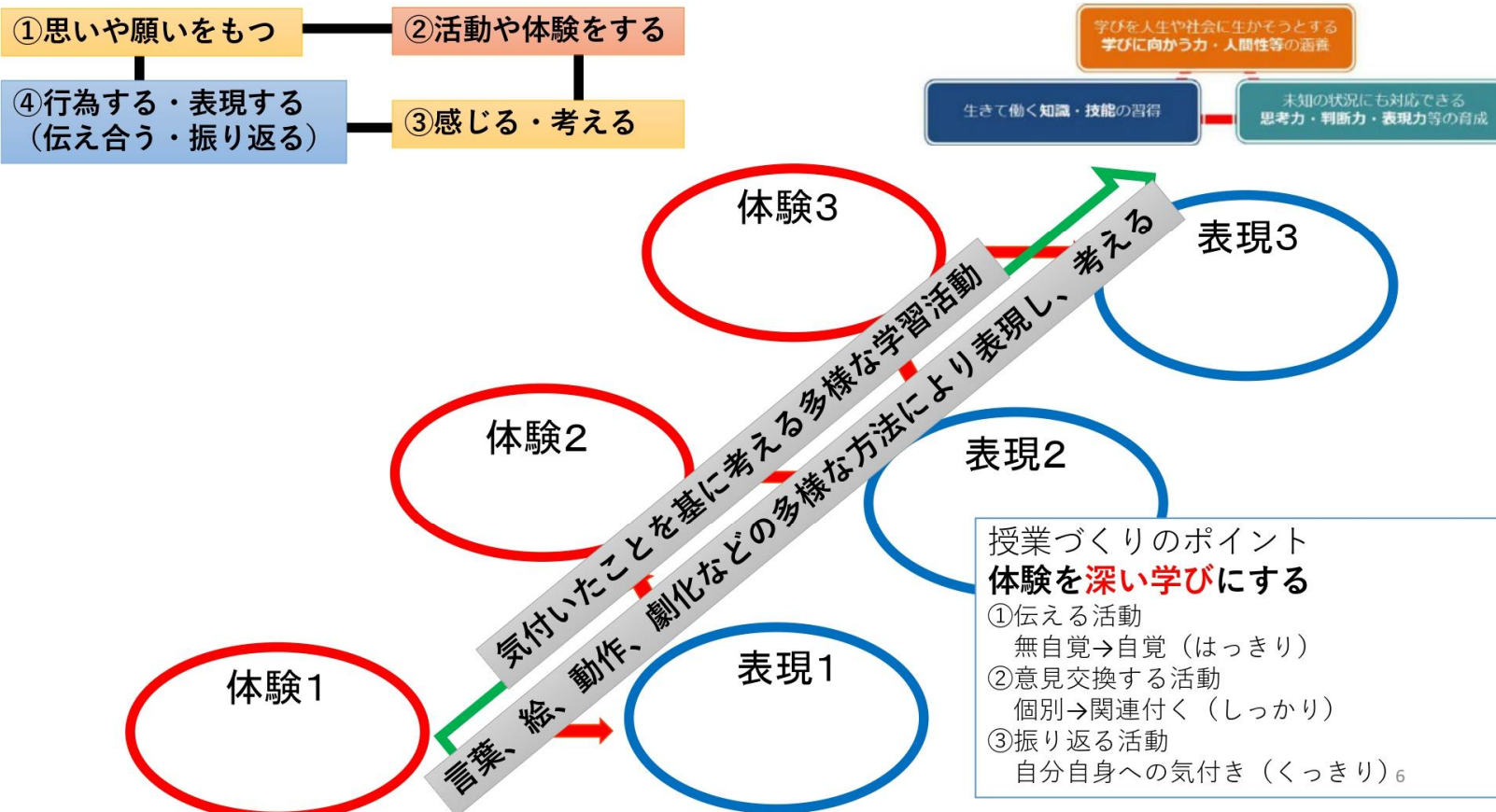
(p.77)**気付きの質**の高まりは、満足感、成就感、自信、やり甲斐、一体感などの手応えとなり、次の体験への**安定的で持続的な意欲につながっていく**ことになる。生活科においては、**気付きの質**の高まりが**深い学び**であると捉えることができる

(p.94)「**身近な生活に関わる見方・考え方**」を生かした学習活動が充実することで、**気付いたことを基に考え、新たな気付きを生み出し関係的な気付きを獲得するなどの深い学び**を実現するようにする。低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりを実現していくことが大切である。

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。

今まで生活科が大事にしてきた**気付きの質の高まりが深い学び**である。

生活科における「深い学び」を実現する授業づくり



体験と表現を繰り返しながら、体験の質もレベルアップし、表現の質もレベルアップしていく中で、資質・能力を育成していく。

表現活動を工夫することによって、表現活動を伝える活動、意見交換する活動、振り返る活動の中で、無自覚だったものが自覚していく。個別だったものが関連付く。自分自身に気付いていく。

気付いたことを基に考える多様な学習活動が必要となったり、言葉を中心としながら絵や動作、劇化などの多様な方法で表現し、考えていくことが求められている。

指導と評価の計画を作成する（小2）

学習の過程

① 思いや願いをもつ

② 活動や体験をする

③ 感じる
・考える

④ 行為する
・表現する

【単元名】動くおもちゃであそぼう（15時間） 合科的・関連的な指導（国語○時間、算数○時間、図画工作○時間）		
動くおもちゃをつくろう（3） ②素材で遊ぶ ④伝え合い交流する	動くおもちゃ研究所（7） ②作って遊ぶ ④アイデア交流	動くおもちゃランド（5） ②みんなと遊ぶ ④研究レポート
1年生の時に、2年生と一緒に遊んだおもちゃで遊んでみたいな	(4)うまく動くようにしたい ・こんなおもちゃできたらいいな	(11)おもちゃランドをつくりたい ・ゴムで飛ぶロケット ・風で動く車 ・坂道を走る車
(1)(2)素材で遊ぶ 図画工作	(5)(6)準備をしたり、遊んだりする (8)(9)工夫して準備をしたり、遊んだりする 算数	(12)(13)作戦会議や準備をする (14)おもちゃランドを開く 国語
・おもしろい ・作ってみたい ・動くのって面白い ・どうして動くのかな？	・面白いね、不思議だね ・友達の遊びも楽しそう ・もっと動くようにしたい ・材料を変えてみよう	・笑顔になるようにしたいな ・アドバイスしてね ・おもちゃランドは楽しいね ・一緒に遊ぶと楽しいね
(3)素材で遊んだことを共有する ・ゴム、風、磁石、坂道で動くことが分かった (量的・関係的な視点)	(7)おもちゃを紹介し合う 国語 (10)遊びを振り返る ・おもちゃがレベルアップしたよ ・1年生と一緒に遊びたいな	(15)おもちゃランドを振り返る ★写真を手掛かりとする ★1年生との関わりが深まる 国語

指導計画の作成例

縦軸：学習の過程

横軸：小単元

生活科の単元計画を考
えていくときに意識し
てほしいこと

・どのくらいの時間を
使ったのか

・どのような順番で

やったのか

・学習過程のどこに当
たるのか

時数を入れることで、体験活動や表現活動にかけた時間が把握しやすくなり、次年度に向けて評価、改善がしやすくなる。

合科的・関連的な指導の工夫のために、関連する教科を位置付けることで関連教科が理解しやすくなる。

Ⅰ C T 端末の効果的な活用

GIGAスクール構想の推進について



スタディーエックス スタイル

StuDX Style

GIGAスクール構想を浸透させ 学びを豊かに変革していくカタチ



"すぐにでも" "どの教科でも"
"誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン

慣れる
つながる
活用

各教科等
での活用

STEAM教育等の
教科等横断的な
学習

教師と子供が
つながる

子供同士が
つながる

学校と家庭が
つながる

職員同士で
つながる

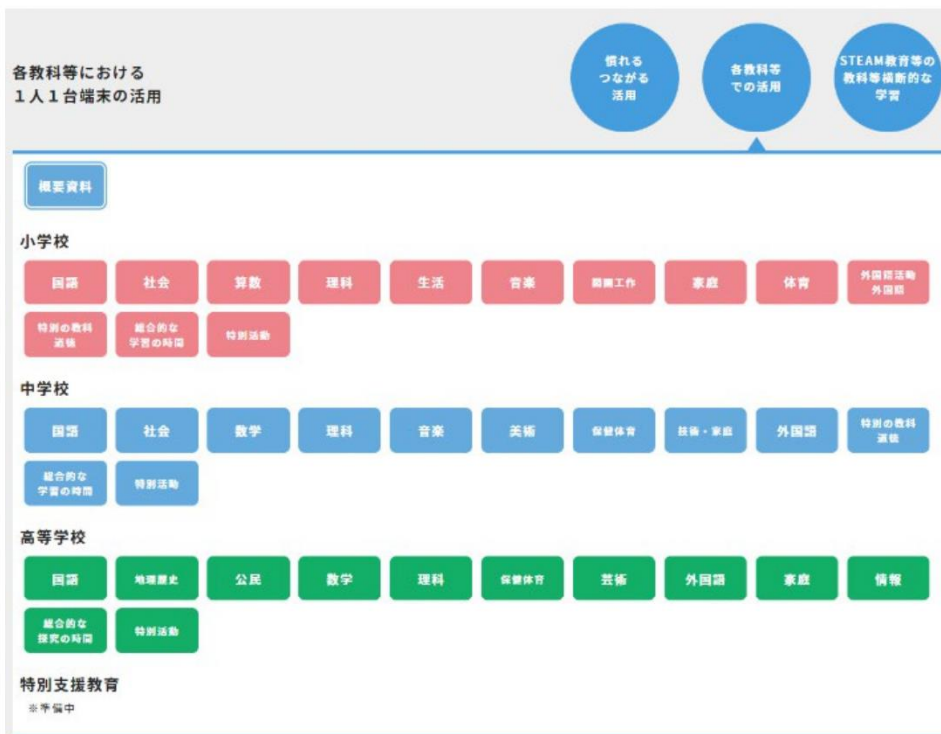
GIGAに慣れる (文房具や教員として使えるようにする)

初等教育資料でICT端末の効果的な活用についてコーナーを立ち上げ、小学校でどのような使い方ができるのかを紹介している。

各学校でICTの活用が効果的に行われることがますます求められている。

生活科においても、事例を紹介している。

GIGAスクール構想の推進について



小学校・第2学年・生活科・「おいしく育てね わたしのやさい」②

～ICT端末を使って、野菜の成長を振り返る～

【ICT端末の写真撮影機能を使う】



【ICT端末の活用メリット】

- 野菜に水をあげたり観察したりする中で、葉の大きさや形の变化の様子や、実が結んだり、虫がついていたりするなどの心躍る出来事を、短時間に何枚も繰り返し継続的に記録することができる。また、ICT端末の画面に言葉を書き込むことができる。
- 野菜の成長を振り返る際に、児童自身が記録した静止面を時系列で並べることで、変化や成長の様子に気付くことができる。また、それらの静止面をきっかけにして、土が乾いていたので水やりしたことや、実が付いたので追肥したことなどの自分との関わりについても気付くことができる。

【ICT端末の画面に書き込む】



【静止面を時系列で振り返る】



【ICT端末の活用についての配慮事項】

- 野菜を見て書くことで、じっくり見たり、葉などを触りながらトゲがあることを気付いたりできることから、ノートなどに書くことと併用することで、多様な表現活動となるため、指導のねらい・場面に応じてツールを選択することが大切である。
- 生活科の特質として、実際に野菜を栽培する中で、その成長の様子を見守ったり、関わったりしていくことが必要である。
- ICT機器の特質として、短時間で正確に成長を記録し、素早く保存することで、成長や変化の様子を時系列で捉えやすくなる。

○ 活用したソフトや機能：写真撮影機能、学習支援ソフト（ファイル共有機能）

視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚などを使って、じっくりと観察し、没頭していく。
それを絵や文で表現する、観察カードに書く、友達と伝え合う。

小学校・第2学年・生活科・またんけん②

【地域調べ・インタビュー活動】



【記録データから、気付きの記録・簡易編集】



【グループ発表・修正・発表会の開催】



1 ICTを効果的に活用するためのポイント

- (1)地域調べ・インタビュー活動
インタビュー時、各端末のカメラ（静止画・動画）で記録を行う。その後の授業内で撮影した写真の整理が可能になる。地域地図は印刷した面帳を貼付した形で行う。（印刷面帳によりICT活用は行わない）
- (2)記録データから、気付きの記録・簡易編集
ICTを活用して、編集方法を指導する。プレゼンテーションソフトの操作が難しい場合は、自由なやり方で構わない。筆を利便とする。
- (3)交流後、資料修正、発表会の開催
グループ間で発表資料、気付きの記録の修正を行う。印刷した面帳、印刷した面帳を修正するための簡易交換を行う。最終的に、簡易・保護者等を対象に、発表会を行う。

2 児童生徒や教師にとってのICT活用メリット

小学校1・2年段階におけるICT活用としては、時間的・空間的制約が伴わない形での活用により、そのほか、発表資料を作成し、プレゼンテーションソフトでのデータ編集・印刷や保存のメリットが1年以降に比べて大きい場合は、両方に1・2年での編集・発表資料としての活用で、おなじICT活用が広がる可能性がある。

※、デジタル化するものの前提条件で行うため、目的に応じてICT活用は必要である。

【活用したソフトや機能】
カメラ機能・プレゼンテーションソフト（必要に応じて）

自分が面白いと思った瞬間で撮影することができる。
道で撮影するときは夢中になってしまうので、安全には十分配慮する。

子供が撮りたいと思う自発性やタイミング、角度、大きさといった能動性がどちらも保障されていることが大切である。

具体的な活動や体験を通して、資質・能力を育成する

気づきの質を高める指導の工夫



体験3

表現3

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の育成

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

気づきの質を高める指導

- ・ 多様性を生かす
- ・ 振り返り表現する
- ・ 伝え合い交流する
- ・ 繰り返す試行錯誤する

多様性を生かす



体験2

表現2

振り返り表現する



体験1

表現1

伝え合い交流する



13

ICTを使うことによって、
「多様性を生かす」
「振り返り表現する」
「伝え合い交流する」
ということが実現されていく。

スタートカリキュラム

幼児の主体性と先生の意図

「幼児の主体性」と「先生の意図」とを バランスよく絡ませていく

- 先生主導の一方的な保育の展開ではなく、
一人一人の幼児が先生の援助の下で
主体性を発揮して活動を展開できるような
幼児の立場に立った保育の展開

活動の主体は幼児、先生は活動が生まれやすく
展開しやすいように意図をもって環境を構成



発達に必要な体験

15

幼児の主体性と先生の意図
をバランスよく絡ませてい
くことがポイントになる。

先生主導の一方的な保育の
展開ではなく、一人一人の
幼児が先生の援助の下で主
体性を発揮して活動を展開
できるような、幼児の立場
に立った保育の展開が求め
られている。

活動の主体は幼児であり、
先生は活動が生まれやすく
展開しやすいように意図を
もって環境を構成する。

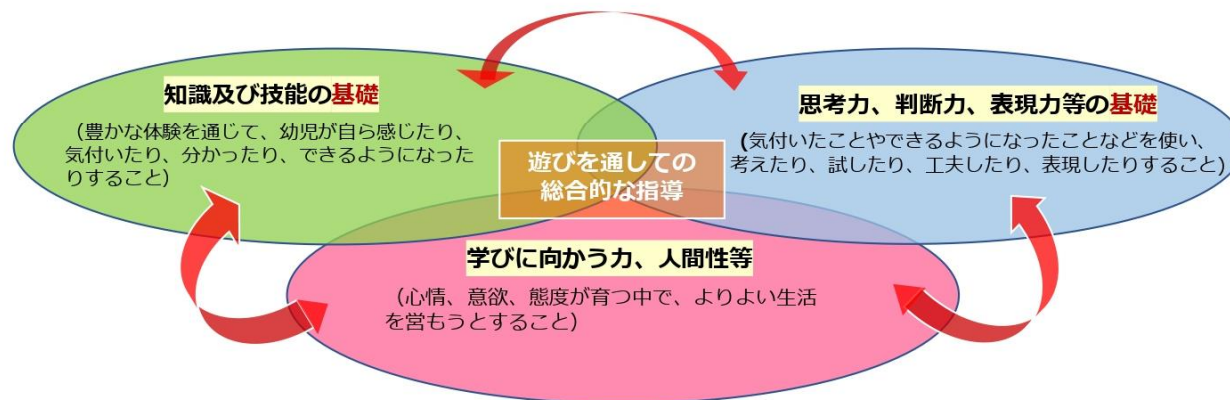
これらが発達に必要な体験になる

育みたい資質・能力

- 各学校段階及び全ての教科等について共通する、育成を目指す資質・能力を明確化
- 資質・能力の三つの柱として整理
 - ①生きて働く「知識・技能」の習得
 - ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
 - ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養
- 幼児教育段階では、三つの柱を下図のように整理。この資質・能力は幼稚園教育要領等の5領域の枠組において育むことができるため、5領域は引き続き維持

なお、幼児教育の特性から、これらは個別に取り出して身に付けさせるものではなく、遊びを通しての総合的な指導を行う中で、**一体的に**育んでいくことが重要

へ環境を通して行う教育



資質・能力の3つの柱については、幼、小、中、高で統一されている。

生活科と共通する部分

- ・ 知識及び技能の**基礎**
- ・ 思考力、判断力、表現力等の**基礎**



平成27年



スタートカリキュラム
スタートブック

発達や学びをつなぐ スタートカリキュラム

スタートカリキュラム導入・実践の手引き

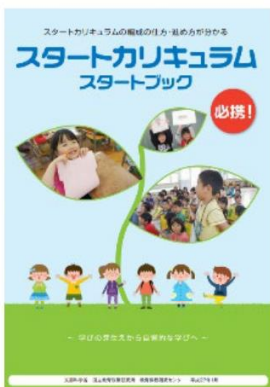
文部科学省
国立教育政策研究所
教育課程研究センター 編著



発達や学びを
つなぐスタート
カリキュラム

基本的な方針や
取組事例につい
ては、大きく変
わることはない
ので、ぜひ見て
もらいたい。

平成30年

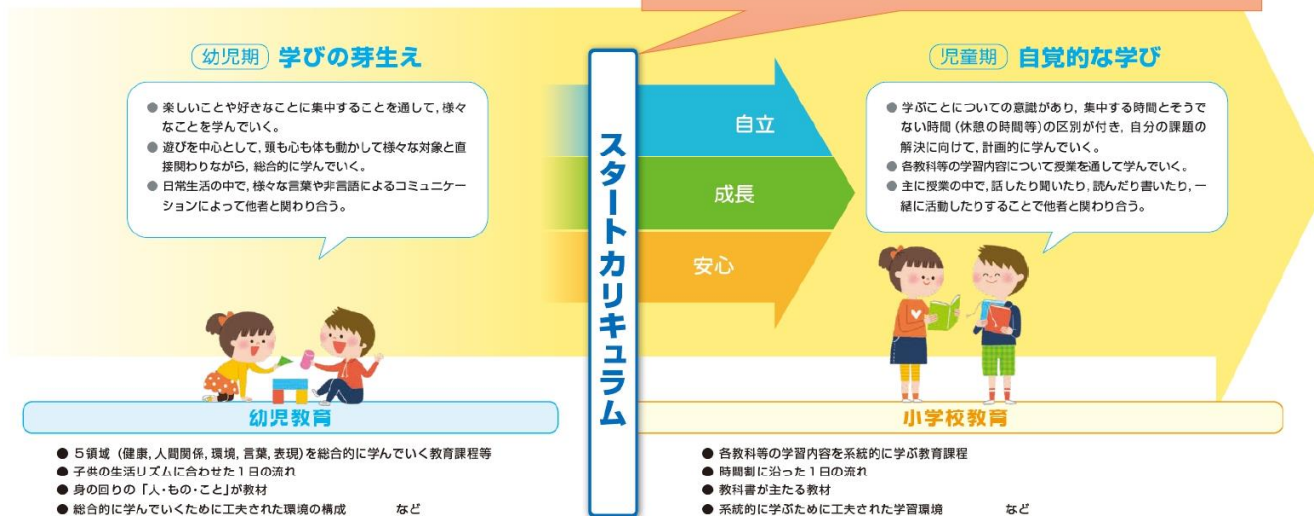


ゼロからのスタートじゃない！

子供は幼児期にたっぷりと学んできています

園ではどうだった？
どうしたい、どうする？

幼児教育と小学校教育の違いや段差を意識しながら、円滑に接続するように、時間割の構成、単元の配列、教師の関わり方などが書かれている。



学びの芽生えと自覚的な学びをつなぐスタートカリキュラム

子供は、発達段階に応じて様々な対象と直接的、間接的に関わりながら学んでいます。幼児期の教育は、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程等に基づいて実施されています。一方、児童期の教育は、各教科等の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。このことが幼児期と児童期の教育の大きな違いと言えます。そこで、子供が新しい学校生活に円滑に移行していくためのスタートカリキュラムが必要となるのです。

スタートカリキュラムとは、小学校に入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生

活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。つまり、ゼロからのスタートではないのです。

入学当初は、学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることが大切です。生活科を核として楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるように活動を構成することが有効です。

園ではどうだった？どうしたい？どうする？

というように主体性を発揮できるような教師の投げかけが大きなポイントとなる。

「ゼロからのスタートじゃない！」を合い言葉にして、幼児期における学びの芽生えと、児童期における自覚的な学びをつないでいく。幼児教育と小学校教育の段差を越えていくことも、成長・自立につながる。決して、段差を取り除くことではない。特に、入学当初は、生活科を核として楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるように活動を構成することが有効となる。

発達や学びをつなぐ スタートカリキュラム

スタートカリキュラム導入・実践の手引き

文部科学省
国立教育政策研究所
教育課程研究センター 監修

第1学年 単元配列表 (例)

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	あいうえおであそぼう				
算数	なかま づくりと かず	くらべ よう	10までのかず	なんばん め	いくつといくつ
生活	がっこうがいすき みんななかよし				
音楽	みんなであそぼう	おんがくにあわせて			
図画工作	すきなものの いろいろう	とんぼマーク	こんなこと あったよ	ねんどで あそぼう	すなやちも あそぼう
体育	からだほろし	ゆうぐあそび	おにあそび		
道徳	げんきに あいさつ	みんなで つやうもの	とまどらと なかよく	いもものと なかよし	
特別活動	入学式 よろしくね	1年生を迎える会 たのしいきょうしゅく			おしごとたのしいな

遊びを通しての総合的な学び(幼児期)

- (1) 幼児の発達や学びを理解する
- ・「幼児期の終わりにまでに育てほしい姿」を踏まえる
 - ・幼児の発達や学びの姿を把握する

より自覚的な学び(児童期)

- (2) 期待する児童の姿を共有する
- ・スタートカリキュラムで期待する児童の姿を明らかにする
 - ・実施期間を検討する

(3) 各学校のスタートカリキュラムをデザインする

- ① 単元の構成と配列
期待する児童の姿に
適合した単元を構成し
配列する

スタートカリキュラムとして
大切なこと

幼児期の教育とのつながりや児童の発達の特性を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行う

全ての単元を配列し、
俯瞰することができる単元配列表を作成する

- ② 週の計画と時間配分
単元計画に基づいた
学習活動を週の計画
として時間配分する

スタートカリキュラムとして
大切なこと

児童の発達の特性や学びの特徴を踏まえ、短い時間で時間割を構成したり、ゆったりとした活動時間を位置付けたりするなど、弾力的な時間割の設定の工夫を行う

実践に向けて具体化
するために進案を作成する

スタートカリキュラムをデザインすることは、学習指導要領で求められている小学校入学当初における指導の工夫や指導計画の作成を、各学校や児童の実態に応じて行うことである。そのため、各学校に応じたスタートカリキュラムを全教職員でデザインすることが大切である。

スタートカリキュラム第2週の進案 (例)

	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日
日	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
朝	「なかよくならう」 ・手遊び ・お歌謡んで ・お前歌んで ・歌って踊ろう	「なかよくならう」 ・手遊び ・お歌謡んで ・お前歌んで ・歌って踊ろう	「なかよくならう」 ・手遊び ・お歌謡んで ・お前歌んで ・歌って踊ろう	「なかよくならう」 ・手遊び ・お歌謡んで ・お前歌んで ・歌って踊ろう	「なかよくならう」 ・手遊び ・お歌謡んで ・お前歌んで ・歌って踊ろう
ポイント1	「がっこうだいすき みんななかよし」 ・自己紹介しよう ・学校のはてなや う(まわりの)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)
ポイント2	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび
ポイント3	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな 読み ・読みで遊ぼう (第10までのかず)
ポイント4	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび
ポイント5	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび	「はるのあそび」 ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび ・はるのあそび

※ 進案の時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられる。(各教科等で実施する場合には、単元活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要がある。)

幼児の発達や学びを理解する。
0からのスタートではない根幹がここにある。
どのような学びや育ちがあるのかを把握する必要がある。

期待する児童の姿を共有し、スタートカリキュラムの実施期間を検討していく。

弾力的な時間割の設定

週案の作成・実施

週の目標
今日の目標

業前活動で、園の遊びや歌を取り入れ、安心して楽しく始められるようにする

短い時間の組合せ
(国語2/3,算数1/3)
2時間続きの学習

スタートカリキュラム第2週の週案(例)

	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日
日	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
朝	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・お話を聞いて
ポイント1	「あいうえおであそぼう」 ・「あいうえお」の歌を ・「あいうえお」の歌を	「あいうえおであそぼう」 ・「あいうえお」の歌を ・「あいうえお」の歌を	「あいうえおであそぼう」 ・「あいうえお」の歌を ・「あいうえお」の歌を	「あいうえおであそぼう」 ・「あいうえお」の歌を ・「あいうえお」の歌を	「あいうえおであそぼう」 ・「あいうえお」の歌を ・「あいうえお」の歌を
ポイント2	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を
生活科を中心とした学習活動	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を
ポイント3	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を
教科等を中心とした学習活動	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を
昼	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を
ポイント4	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を	「はるのあさ」 ・「はるのあさ」の歌を ・「はるのあさ」の歌を

※の時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられる。(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要がある。)

生活科を中心とした
合科的・関連的な指導の工夫
(学校探検→算数)
(学校探検→図工)

業前活動として園での遊びや歌を取り入れ、安心して楽しく始められるようにする時間を取っていく。

短い時間の組合せとして、3分の1や0.5などのカウントをしたり、また2時間続きの学習を取り入れたることによって、意欲が継続したり、集中力が継続したり、また興味・関心が高まっていき、充実することが考えられる。

生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫も、2時間目と3時間目とか、4時間目と5時間目を組み合わせることによって、学校探検をしたら、今度は見つけたものの数を数える算数を行ったり、学校探検で見つけたものを図画工作で絵に書いたりということができるようになる。

1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の捉え方の例

自らの興味や関心に応じて、思うがままに環境と関わる中で、様々な体験を積み重ねていく。その具体的な姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える。
活動の中での具体的な幼児の姿を通して、幼保小の先生方が話し合うことが大切である。ここでは、幼児が自分達で考えたお店屋さんごっこ（クレープ屋さんの場合）を例に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉えてみる。

健康な心と体
明日、クレープ屋さんをやりたいと思って、お店に必要な小道具を考えて準備する

自立心
自分達で考えたお店作りが、自分達の実力で実現できた達成感、友達が喜ぶ充実感を味わう

協同性
実現したいお店のイメージを友達と共有し、役割分担したり協力したりしながらごっこ遊びを展開する

道徳性・規範意識の芽生え
やりたいことが友達と異なる時には、折り合いをつけながらきまりをつくる

社会生活との関わり
楽しかった地域のお祭りの経験を友達と共有し、かっこよかったクレープ屋さんを再現してみたいと考える

興味や関心に応じて遊びに没頭する
10の姿が絡み合って現れてくる



楽しい
一緒にやりたい
本物らしくしたい

〔今後体験してほしい〕
共通の目的の実現に向けて協力したり、時には互いの思いがぶつかりあう中で、相手の立場になって考えたり、互いが納得できる代案を考えたりしてほしい。

〔過去の体験〕
絵をかけた時に、カラフルに色を塗って楽しんでいたので、また、カラフルにしたいと思ったのかな。

思考力の芽生え
ふさわしい材料を考えてクレープに見立て、より本物らしい見え方を試行錯誤する

自然への関わり・生命尊重
クレープを持って園庭や公園へピクニックに出かけ、花を愛でたり風の気持ちよさを感じたりする

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
生活の中にある文字や数字を使ってみると、お店が本物らしくなり楽しくなることを知る

言葉による伝え合い
興味を持ったお店について友達と意見交換し、自分の思いが伝わる表現を工夫したりしながら話し合う

豊かな感性と表現
クレープ生地にも具材を置くとともに、カラフルできれいにみえるようにするなど、自分なりの表現を楽しむ

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き及び参考資料

クレープ屋さんごっこ
をしている時にみられる10の姿

生活科の学習と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連



1 秋と遊ぶ



2 秋のおもちゃで遊ぶ

知識及び技能の基礎

思考力、判断力、表現力等の基礎

学びに向かう力、人間性等

3 秋のおもちゃ祭りをしよう

- ①落ち葉やどんぐりで遊ぶために、校庭や公園に出かけ、きれいな落ち葉やどんぐりを発見して嬉しくなったり、不思議に感じたりする。
- ②軸の位置を見ながらどんぐりごまがよく回るようにしたり、糸の長さに着目してどんぐりけん玉の難易度を変えたりしながら、楽しい遊びとなるように試行錯誤する。
- ③実現したい遊びのイメージを友達と共有し、ルールを決めたり協力したりしながら遊びを展開する。
- ④どんぐりごまやどんぐりけん玉を楽しむ中で、回る時間や入った回数を数える遊びがより楽しくなることに気づき、友達と遊ぶためのルールを創り出す。
- ⑤やりたいことが友達と異なるときには、折り合いを付けながらきまりやルールを作る。
- ⑥楽しかった季節のお祭りの経験を友達と共有し、秋の自然がいつぱいの祭りを再現してみたいと考える。
- ⑦秋のおもちゃ祭りのスケジュールについて友達と意見交換し、自分の思いが伝わる表現を工夫しながら話し合う。
- ⑧秋の自然で遊んで感じたことについて、友達とそれぞれの表現のよさを認め合いながら、秋のおもちゃ祭りの看板づくりを楽しむ。
- ⑨明日、クラス全体で秋のおもちゃ祭りをするために、祭りに必要な看板や小道具を考えて準備する。
- ⑩自分が考えたお店づくりが自分の力で実現できた達成感、友達が喜ぶ充実感を味わう。

①自然への関わり・生命尊重

②思考力の芽生え

③協同性

④数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

⑤道徳性・規範意識の芽生え

⑥社会生活との関わり

⑦言葉による伝え合い

⑧豊かな感性と表現

⑨健康な心と体

⑩自立心

生活科のどんぐりなど秋のものを使って遊ぶ単元における10の姿の関連

小学校1年生の単元の中にも確かに10の姿が見られることを理解することができる。

青字・・・知識及び技能の基礎

緑字・・・思考力、判断力、表現力等の基礎

オレンジ字・・・学びに向かう力、人間性等

現状の課題を踏まえた幼保小の架け橋プログラムのねらい

【幼保小連携の成果と課題】

【成果】

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3要領・指針の整合性確保
- ・幼保小接続期の連携の手掛かりとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」策定
- ・小学校との連携の取組を行っている園が約9割に上るなど、取組が進展

【課題】

- ・幼稚園・保育所・認定こども園の7～9割が小学校との連携に課題意識、各国・小学校における連携の必要性に関する意識の差
- ・半数以上の園が行事の交流等にとどまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達目標と誤解され、連携の手掛かりとして十分機能していない
- ・スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムがバラバラに策定され、理念が共通していない
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」だけでは、具体的なカリキュラムの工夫や教育方法の改善方法がわからない
- ・小学校側の取組が、教育方法の改善に踏み込まず学校探検等にとどまるケースが多い
- ・施設類型の違いを越えた共通性が見えにくい
- ・教育の質に関するデータに基づき幼児期・接続期の教育の質の保障を図っていくための基盤が弱い

→接続期の学びや生活の基盤の育成に大きな影響

【架け橋プログラムのねらい】

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進

連携への意識改革 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方
資質・能力をつなぐ ことができる手立てを
普及
10の姿の理解と活用 している環境の構成や
理念の共有 育ち方に関する工夫を見える化し、
スタートカリキュラムの更新 ための枠組
みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進

赤で書いているところが課題で、青で書いているところが成果だが、多くの課題が浮き彫りになっている。

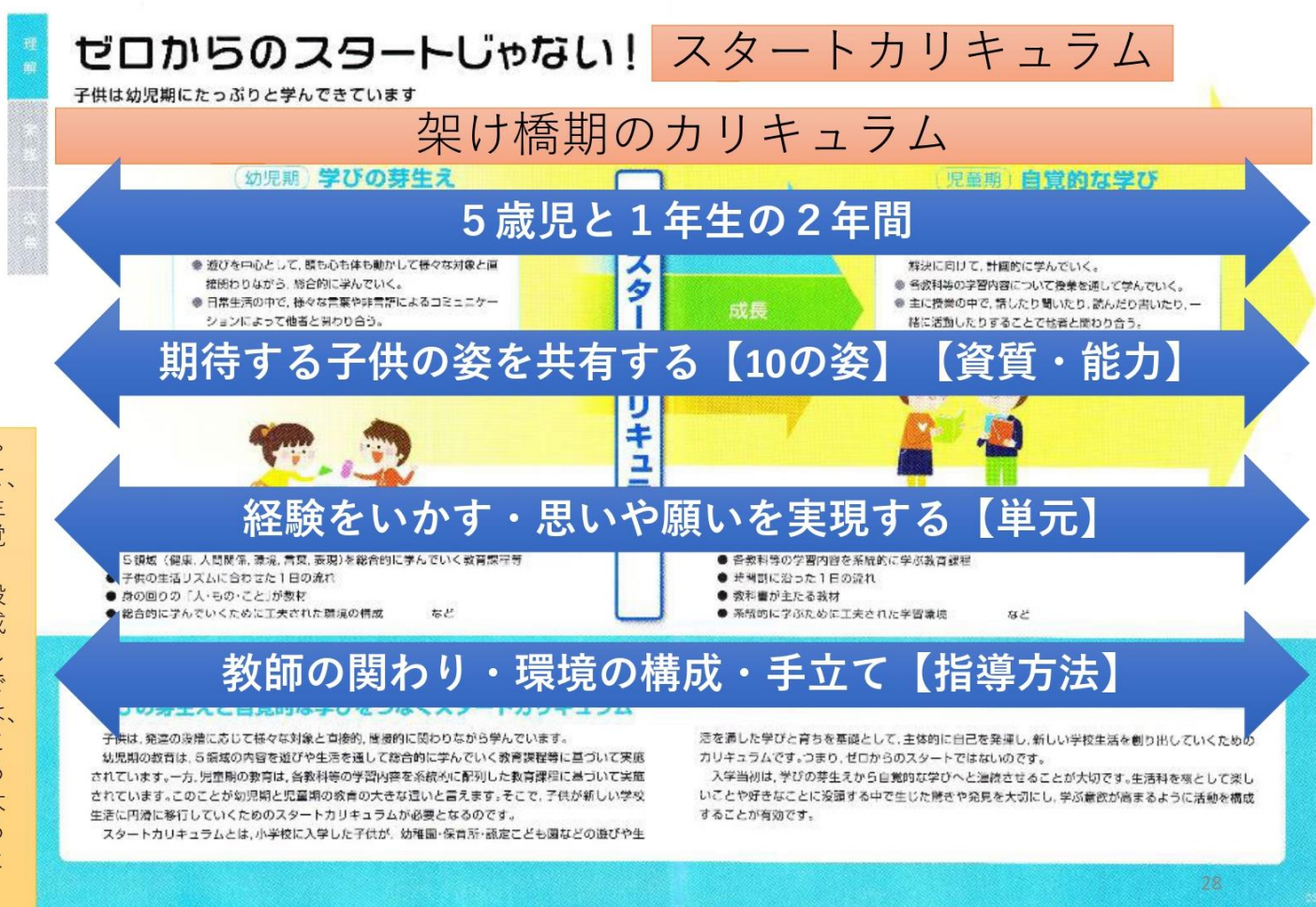
連携への意識改革が必要である。

資質・能力をつなぐ。
10の姿の理解と活用。
理念の共有。

これらによってスタートカリキュラムの更新ということになる。



「ゼロからのスタートじゃない!」を合い言葉にして、幼児期における学びの芽生えと、児童期における自覚的な学びをつないでいく。幼児教育と小学校教育の段差を越えていくことも、成長・自立につながる。決して、段差を取り除くことではない。特に、入学当初は、生活科を核として楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるように活動を構成することが有効となる。



架け橋期のカリキュラムは、5歳児と1年生の2年間

10の姿や資質・能力で期待する子供の姿を共有する。

子供たちが経験を生かす、または思いや願いを実現する単元構成にしていけることが、学校の授業では求められる。

教師の関わりや環境の構成、手立てなど、どのような指導方法が必要なのかということが検討され、それが授業に結びついていく。

架け橋期のカリキュラム

5歳児と1年生の2年間

③共通点・相違点

期待する子供の姿を共有する【10の姿】【資質・能力】

①遊んでいる姿から、どのような力が育とうとしているのか

④小学校でどのような姿としてつながるのか

経験をいかす・思いや願いを実現する【単元】

⑤どのような保育をしていくのか

⑤どのような授業をしていくのか

教師の関わり・環境の構成・手立て【指導方法】

②教師・保育士の支援

⑤小学校でも取り入れたい支援

子供たちの遊びを通した活動が、小学校教育にどのようにつながり、学校の授業ではどのように実現し、先生方がどのようにサポートしているのかがわかっていくと、保育園や幼稚園ではどのような活動をし、保育をしていくのかということがより一層明らかになり、質の高いものになっていくことを期待している。

特に、オレンジ色の部分を重点的に意識するとよい。

学校飼育動物について

学校における動物飼育について

継続的な飼育・栽培を行うことの意義

(解説P43) 第3章 生活科の内容(7)から抜粋

- ・ **長期にわたる飼育・栽培の過程**では、自ら関わっていくことで、児童の感性が揺さぶられるような場面が数多く生まれてくる。しかし、児童を取り巻く自然環境や社会環境の変化によって、日常生活の中で自然や生命と触れ合い、関わり合う機会は乏しくなっている。このような現状を踏まえ、**生き物への親しみ**をもち、**生命の尊さを実感**するために、継続的な飼育・栽培を行うことには大きな意義がある。

(解説P57) 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

- ・ **2学年間にわたっての継続的な飼育・栽培を行うことが特に強調された**のは、前回の改訂からである。これは、**自然事象に接する機会が乏しくなっていることや生命の尊さを実感する体験が少なくなっているという児童の置かれた現状**を踏まえたものであるが、今回の改訂においても、引き続き充実を図ることが必要である。
- ・ 児童は、長期にわたる飼育・栽培を行うことで、成長や変化、生命の尊さや育て方など様々なことに気づき、**親身になって世話ができるようになる**のである。

(H元解説)

- ・ 「**自然離れ**」の現象が年々強まっている
- ・ 生活科においては、動植物を育てて楽しみ、自分の生活を充実させていくことが大切なねらい

(H20答申)

- ・ **生命の尊さ**や自然事象について**体験的に学習する**ことを重視すること

(H20解説・改善の具体的事項)

- ・ 自然に直接触れる体験や動物と植物の双方を自分たちで**継続的に育てることを**重視するなど、自然の素晴らしさや生命の尊さを実感する指導の充実に配慮する

長期にわたる飼育・栽培を行うことで、親身になって世話ができるようになる。継続的な飼育をしていくことによって、より親身になって世話をしていく。そのことによって、生命の尊さや、生きているという実感を持てるのではないか。

□ **管理や繁殖、施設や環境などについて配慮**
→地域の専門家や獣医師などの多くの支援者と連携

□ **休日や長期休業中の世話**
→児童や教師、保護者、地域の専門家などによる連携した取組

□ **外来生物等の取扱いには十分配慮**

□ **感染症などの病気の予防**
→活動の前後に、必ず手洗いをする習慣

□ **児童のアレルギー**
→事前に保護者に尋ねる

動物の飼育に当たっては、**管理や繁殖、施設や環境などについて配慮**する必要がある。その際、専門的な知識をもった**地域の専門家や獣医師などの多くの支援者と連携**して、よりよい体験を与える環境を整える必要がある。**休日や長期休業中の世話**なども組織的に行い、**児童や教師、保護者、地域の専門家などによる連携した取組**が期待される。また、地域の自然環境や生態系の破壊につながらないように、**外来生物等の取扱いには十分配慮**しなければならない。

活動の前後には、必ず手洗いをする習慣を付け、**感染症などの病気の予防に努める**ことも大切である。**児童のアレルギー**などについても、事前に保護者に尋ねるなどして十分な対応を考えておく必要がある。

動物が適切な環境で飼育されていくことが大事。

管理や繁殖、施設や環境などについての配慮として、地域の専門家や獣医師などの多くの支援者と連携していくことが必要。

休日や、長期休業中の世話については、児童や先生方、そして保護者、地域の専門家と連携した取り組みが必要。

国会等で指摘されている学校における不適切な飼育例

- 増えすぎた飼育動物を殺処分した。
- ずさんで荒れ果てた飼育環境。病気でも治療されない。
- 飼育動物の世話が教員任せになっており、土日も学校に通わなければならない負担が大きい。
- 世話を完全に子供任せにしている。
- 災害等の長期休業中に放置されて死亡していた。
- 飼育小屋に日が当たるなど、適正な温度で飼育していない。

など



生き物への親しみをもち、大切にできるようにするという、学校で動物飼育することの意義が十分に踏まえられていないのではないか。命の尊さの実感とは真逆の教育になっていないか。

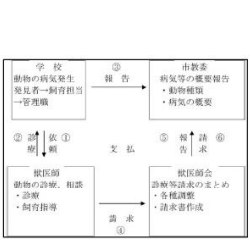
国会等で指摘される学校における不適切な飼育例が取り上げられることがある。
これは、国民の声でもあるので、こうしたことがないように、よく目配せし、よく注目しながら、各学校を支援してほしい。

学校だけでは、治療費であるとか、どこに連絡するか、どの獣医師に頼むかというのがなかなか難しいので、市として取り組んでいくことが考えられる。

主に管理や繁殖、施設や環境に関する取組①

A市の取組

市が獣医師会と委託契約を締結し連携することにより、学校で飼育される動物の診療、飼育指導及び飼育相談等を行い、各学校が適切な動物飼育ができるようにした。その際の診療費等は、学校が負担することなく市が獣医師会に支払う。なお、協力体制や事務上の手続きをフローチャートで示すことで、スムーズに連携を図ることができた。



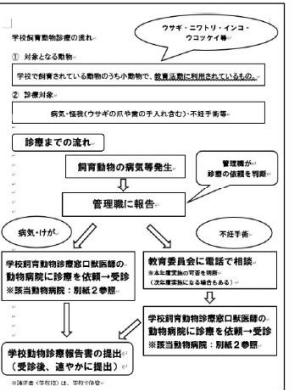
B県の取組

県獣医師会との連携した「モルモットのホスティング飼育」

- ・獣医師会が学校にモルモットと飼育設備一式を一定期間貸し出す。
- ・長期休暇中（夏休み・冬休み）は、獣医師が預かることも可能。
- ・けがや病気の場合は獣医師が引き取り、無料で治療を行う。

C市の取組

本市では、獣医師会と契約し、ウサギやモルモットなどの飼育動物について、学校が要望する日に獣医師が健康診断（年1回）を行う。さらに、リクエストすれば、その際、生物の管理の在り方等、生活科の学習内容にも関連付けた話を子供たちにしてもらうこともできる。診療についても、3万円以下の場合は学校負担なく、必要な時に行うことができる。これらのことについて、対応フローを学校に示し、担当者が速やかに行えるように配慮している。



学校における動物飼育について

文部科学省HP：学校における動物飼育について

学校における動物飼育について

- ▶ [「各都道府県・指定都市等の取組事例\(学校飼育動物について\) \(PDF:944KB\)」](#) 
- ▶ [「学校における動物飼育に関する参考資料」 \(PDF:529KB\)」](#) 
- ▶ [「学校における望ましい動物飼育のあり方」文部科学省委嘱研究 \(PDF:3.15MB\)」](#)
- ▶ [「学校飼育動物の診療ハンドブック」\(※日本獣医師会ウェブサイトへリンク\)](#)
- ▶ [「動物の愛護と適切な管理人と動物の共生をめざして」\(※環境省ウェブサイトへリンク\)](#)
- ▶ [「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」 \(PDF:144KB\)」](#)
- ▶ [「飼養衛生管理基準について」\(※農林水産省ウェブサイトへリンク\)](#)
- ▶ [「各都道府県家畜衛生部局窓口\(家畜保健衛生所所在地一覧\)」\(※農林水産省ウェブサイトへリンク\)](#)
- ▶ [「動物由来感染症を知っていますか？」\(※厚生労働省ウェブサイトへリンク\)](#)

その他の基礎資料

- ▶ [政府統計の総合窓口\(e-Stat\) \(※政府統計の総合窓口ウェブサイトへリンク\)](#)

※項目名は五十音順



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1394142.htm

文科省のホームページに、「学校における動物飼育について」をアップしている。

指導と評価の計画を作成する

学習の過程

①思いや願いをもつ

②活動や体験をする

③感じる

④行為する

【単元名】生きものだいすき（13時間）

生き物を見付けよう ②生き物探し ④生き物の様子を付箋紙に書く	生き物となかよくなろう ②生き物の世話をする ④生き物の様子を伝え合う	生き物のことを伝えよう ②・・・・・・・・・・ ④生き物を紹介する
生き物をじっくり見たり、探したり、捕まえたりしたい	(6)生き物と仲よくなりたい	見付けたことや感じたことを伝えたい (12)生き物を紹介する計画を立てる
(1)生き物を探す (2)生き物を捕まえる（学校・畑） (3)(4)生き物を捕まえる（土手）	(7)(8)生き物の世話をする	
・バッタは草が生えているところ ・大きなバッタを捕まえたよ ・コオロギもいたよ ・何というバッタだろう	・ここにお店があるんだね ・どんぐりを拾えてうれしいな ・お客さんがたくさんいたよ	・カブトムシは怖いと思っていたけど、だんだん可愛く思うようになった（自分との関わり）
(5)生き物の世話をしたり、自分の発見を付箋紙に書いたりする ★教室に生き物図鑑や、霧吹きなどの飼育道具を用意する	(9)(10)(11)生き物のことを伝え合ったり、モルモットの様子をカードに書いたりする 国語	(13)仲よくなった生き物を紹介する

39

生き物単元をどのような指導計画でやっていくのかがポイントになる。
 13時間扱いで、学習の過程が見られる。
 体験活動や表現活動をどのように設定していくのか、その時数は適切であるのか、その活動自体で、どのような資質・能力が育ったのかということを明らかにし、それを実際に授業で実践し、評価、改善していくことが、小学校の飼育活動をより一層充実させていくことになる。